

上原 栄子

- | | | | | |
|---|-------------|----------|-----|------|
| 1 | 昭和十九年十二月十四日 | 二十年二月九日 | 久米川 | 二部四年 |
| 2 | 二十年三月十日 | 二十年四月七日 | 久米川 | 二部四年 |
| 3 | 二十年四月九日 | 二十年五月十九日 | 久米川 | 二部五年 |

先生に見て戴く日記で、多少お行儀の良さを差し引いたとしても、当時教えられていた事の全てを真直ぐに受けとめ、この疎開という現実に全く疑問を持たなかったことは、正に思想教育の体験で、その状況にあつて行間に伺える家族への思いだけはどうしても抑えることのできなかつた幼心の真実の叫びかと。それだけに人が生きる原点になるものを否定するような異常さを今更のよう感じます。

昭和六十三年八月記す

久保田 栄子